

登録コード	L2990900	開講年度	2026				
担当教員	金井 直		副担当				
授業科目	博物館実習Ⅰ						
英文授業名	Museum PracticeⅠ						
授業タイトル	博物館実習Ⅰ						
単位数	1	対象学生	3	講義期間	後期(後半)	曜日・時限	月曜・1時限
講義室	人文212講義室		遠隔授業科目		読替科目	読替科目は履修案内を確認すること	
信大コンピテンシー	該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素			⇔	【授業の達成目標】		
	2022Lカリ, 2021Lカリ, 2020Lカリ						
	【2022年度以前カリ対象】情報を適切に集約・分析・表現できる高度なメディアリテラシー			⇔	資料を適切に調査・登録・分析できるようになる。		
	【2022年度以前カリ対象】他者の考えを明晰に理解し、自己の主張を的確に表現できる高度なコミュニケーションリテラシー			⇔	共同作業を通して展示を協議・構想し、実現できるようになる。		
	2026Lカリ, 2025Lカリ, 2024Lカリ, 2023Lカリ						
	【2023年度以降カリ対象】人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門の学力が身についている。【思索力・受容力・批判力】			⇔	資料を適切に調査・登録・分析できるようになる。		
	【2023年度以降カリ対象】必要な情報を的確に収集し、理解し、発信する力が身についている。【メディアリテラシー・コミュニケーションリテラシー・外国語能力】			⇔	共同作業を通して展示を協議・構想し、実現できるようになる。		
	【2023年度以降カリ対象】専門の学力を基盤とし、持続可能な社会を実現するための課題に取り組む力が身についている。【開拓力・企画発想能力】			⇔	持続可能性を念頭において、展示を実施できるようになる。		
授業で学べる「テーマ」	地域運営、芸術文化、多文化協働						
全学横断特別教育プログラム							
授業の概要	学内外の資料を用い、資料の取り扱い、記録・管理方法、展示方法を学び、さらに小展示の実現をめざす。また、学外の博物館において見学実習をおこない、学芸員実務の具体例にふれることで、館園実習に向かう前提となる知識・意識を高める。担当教員が学芸員としての実務経験を活かして授業を進める。						
授業計画	第1回 博物館学芸員とは（実習の目的と意義を説明するイントロダクション） 第2回 資料の取り扱いについて 第3回 資料台帳をつくる 第4回 博物館・美術館の見学（学外授業） 第5回 展示方法・教育普及活動を学ぶ（小展示をプランする） 第6回 学内展示作業 第7回 学内展示撤去作業 第8回 授業の総括、意見交換、15分間の授業アンケート ※見学の日程については、受講者と受入館の都合を踏まえ調整する。 期末試験の有無 なし						
成績評価の方法	グループワークへの取り組み（eALPS上での意見交換や授業時の発表を含む）60％、まとめレポート40％の比率で評価する。						
成績評価の基準	グループワークに参加し、討議や実習に主体的に取り組んでいれば「水準にある」。さらに、課題や方法の発見・改良に意欲的であれば「やや上にある」。加えて、グループ活動において主導的な立場にあれば「かなり上にある」。そのうえで、グループ活動の成果をふまえて、博物館の現状と課題・可能性について、緻密かつ総合的な分析を展開できれば「卓越している」。						
事前事後学習の内容	毎回、授業の最後にグループごとに事後学習課題が設定される。 受講生は調査・学習を進め、その成果をベースに次の回の授業時の実習や討議が進められる。						
履修上の注意	博物館学芸員資格関連の他科目をできるだけ履修しておくこと。美術館・博物館を自主的に見学し、鑑賞経験を高めておくこと。学外授業（博物館・美術館の見学）を一度、週末におこなう（松本市あるいは安曇野市。日程詳細は相談の上決定）。その際の費用（交通費・入場料）は各自が負担する。 学芸員資格を得て、将来、博物館・美術館・教育委員会等に勤務することを希望している人に履修していただきたい。						
質問、相談への対応	メールで。kanait(a)shinshu-u.ac.jp (a)は@						
教科書	なし。						
参考書	日本博物館協会編『博物館資料取扱いガイドブッカー文化財、美術品等梱包・輸送の手引き』ぎょうせい、2016 その他、授業中に適宜紹介する。						